

三菱 **工業用** 高速1本針本縫ミシン
形名

LS2-1130

取扱説明書

はじめに

このたびは、三菱工業用ミシンをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

ミシンをご使用になる前に、本書を十分にお読みください。また、別紙「安全上のご注意」
「三菱リミサーボ X」の取扱説明書についても本書には記載されていない注意事項があるため、
そちらの資料についてもよくお読みいただいた上で、正しく安全にご使用ください。

ご使用上の注意

1 安全上のご注意

1. 電源スイッチを入れる際、針の下付近 プーリ部に手を入れないでください。
2. ミシンを使用しないとき及び作業者がミシンから離れるときは、必ず電源スイッチを切ってください。
3. ミシン頭部を倒すとき、Vベルトを取り付けたり、取り外すとき、調整及び部品交換のときは、必ず電源スイッチを切ってください。
4. ミシン運転中はプーリ、Vベルト、糸巻車、モータ付近に指、頭髪を近づけたり、物を置いたりしますと危険ですから、おやめください。
5. ミシン運転中は天びんカバー内、針の下付近、プーリ部に手を入れないでください。
6. ベルトカバー、指ガード、目ガードが装着されている場合、これらを外した状態でミシンを運転しないでください。

2 ミシン運転前のご注意

1. オイルパンに油だめがあるミシンの場合、油を入れないうちは絶対に運転しないでください。
2. 滴下式ミシンの場合、油を差さないうちは絶対に運転しないでください。
3. はじめてミシンを運転する場合、電源スイッチを入れてミシンのプーリ回転方向を確認してください。
(プーリ側より見て反時計回り方向が正しい回転です。)
4. モータの銘板に表示されている電圧及び单相・三相の別が正しいか確認してください。

3 使用環境についてのご注意

1. 高温 (35℃以上) や低温 (5℃以下) でのご使用は避けてください。故障の原因となります。
2. 粉塵などの雰囲気では使用しないでください。
3. 高周波ウェルダなどの電気ノイズの多い箇所での使用は避けてください。

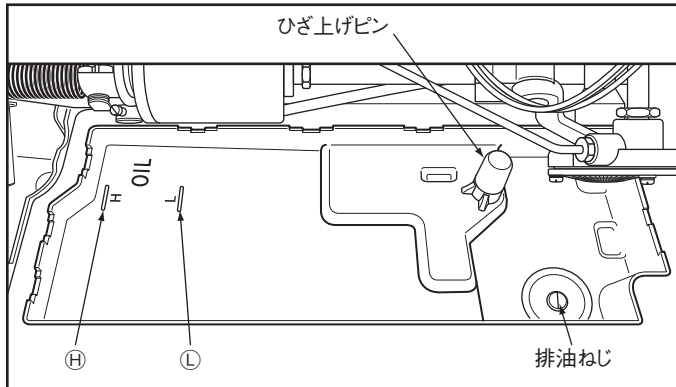
目 次

ご使用上の注意	1
1 注 油 (1)	1
2 注 油 (2)	1
3 給油状態	1
4 かまの給油調節	1
5 ポンプの給油調節	1
6 定期清掃	2
7 ベルトカバーの取り付け	2
8 取扱上のご注意	2
ミシンの使い方	3
1 針の取り付け方	3
2 下糸の巻き方	3
3 上糸の通し方	4
4 縫い目長さの調節と返し縫い	4
5 縫い調子	4
6 上糸の調子	5
7 下糸の調子	5
8 押え圧の調節	5
9 上糸調節器の調子皿の開き時期の調節	5
仕 様	6

ご使用上の注意

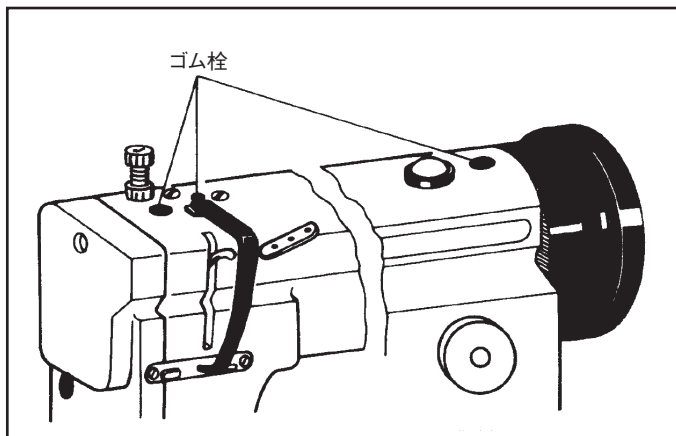
1 注油(1)

油タンクにH線まで油を入れます。
ご使用中に定期点検を行い、油量がL線以下のときはH線まで補給してください。
油は、三菱指定の「MC70M」を使用してください。



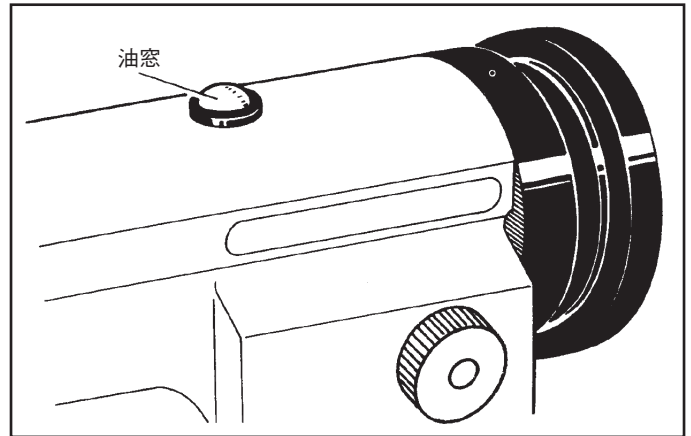
2 注油(2)

新品のミシンあるいは長期間休止したミシンを運転するときは、最初に矢印のゴム栓を外して十分に注油してください。



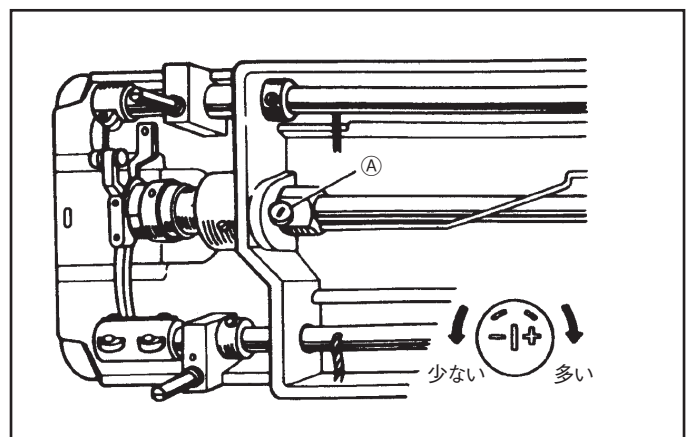
3 給油状態

ミシンを運転して油が油窓へ飛散していることを確認してください。



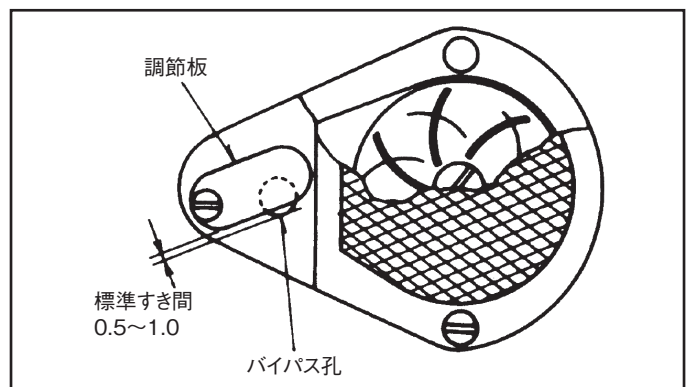
4 かまの給油調節

ねじAを回して給油量を調節してください。



5 ポンプの給油調節

通常この調節はしないでください。
低速回転の使用状態でアーム油窓に油の飛散がない場合にすき間を閉じてください。

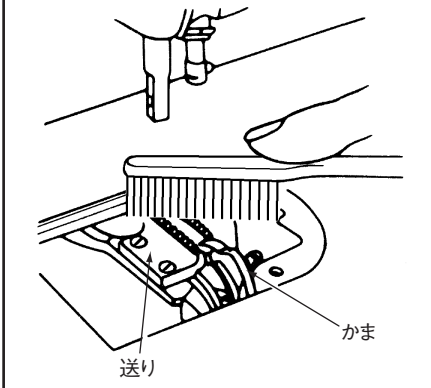


ご使用上の注意

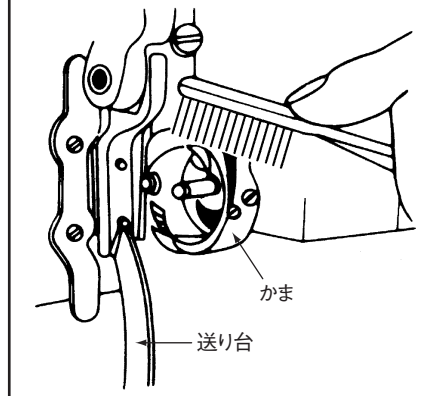
6 定期清掃

1. ミシン

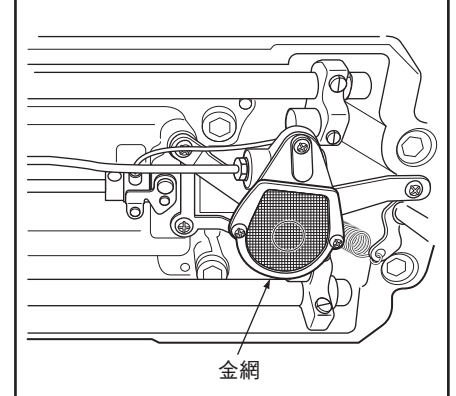
●針板を外し送りの溝のほこりを取ります。取り付けはまず手でねじを2～3回ねじこんでから長いねじ回しで均等に締め付けます。



●ミシンを倒してかまのまわりやボビンケース内部のほこりや糸くずを取ります。



●ミシンを倒してポンプの金網についた糸くずを取ります。



2. モータ

1～2ヶ月に一度モータ防塵フィルタについたほこりを取り除いてください。(フィルタが糸くずや繊維くずで目詰まりした状態で運転しますとモータが過熱し、寿命に悪影響を与えます。)

3. 制御盤

コネクタ部のほこりを取り除いてください。(ほこりが付着すると誤動作の原因となります。)

7 ベルトカバーの取り付け

1. ミシン側 安全上、ベルトカバーを取り付けてください。付属に同梱されている要領書を参照ください。
2. モータ側 安全上、ベルトカバーを取り付けてください。

8 取扱上のご注意

- (1) 電源を入切するときはペダルから足を離しておいてください。
- (2) ミシン運転中に電源を切ったり、停電になったときにはブレーキがかからないときがありますのでご注意ください。
- (3) 制御盤の中にゴミが入りますと、誤動作や故障の原因になりますのでミシン運転中は制御盤の蓋を必ず閉めておいてください。
- (4) 制御回路をテストで点検しないでください。半導体部品にテストの電圧が印加され損傷することがあります。

ミシンの使い方

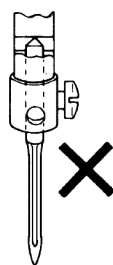
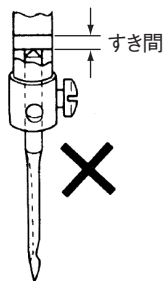
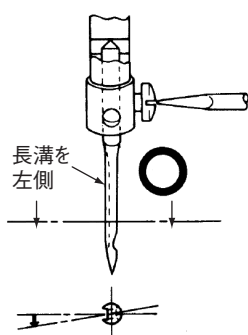
1 針の取り付け方

注：必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

針は突き当たるまで差しこみ、長溝を左真横にして、ねじを締め付けます。

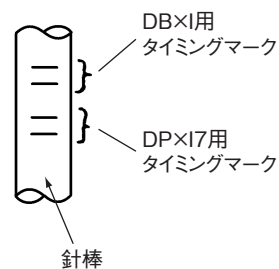
差しこみが足りない

向きが悪い



注：テトロン糸などの場合で返し縫い時に糸切れが発生する場合は、長溝を少し手前側にして取り付けると良くなることがあります。通常では向こう側にして取り付けないよう注意してください。

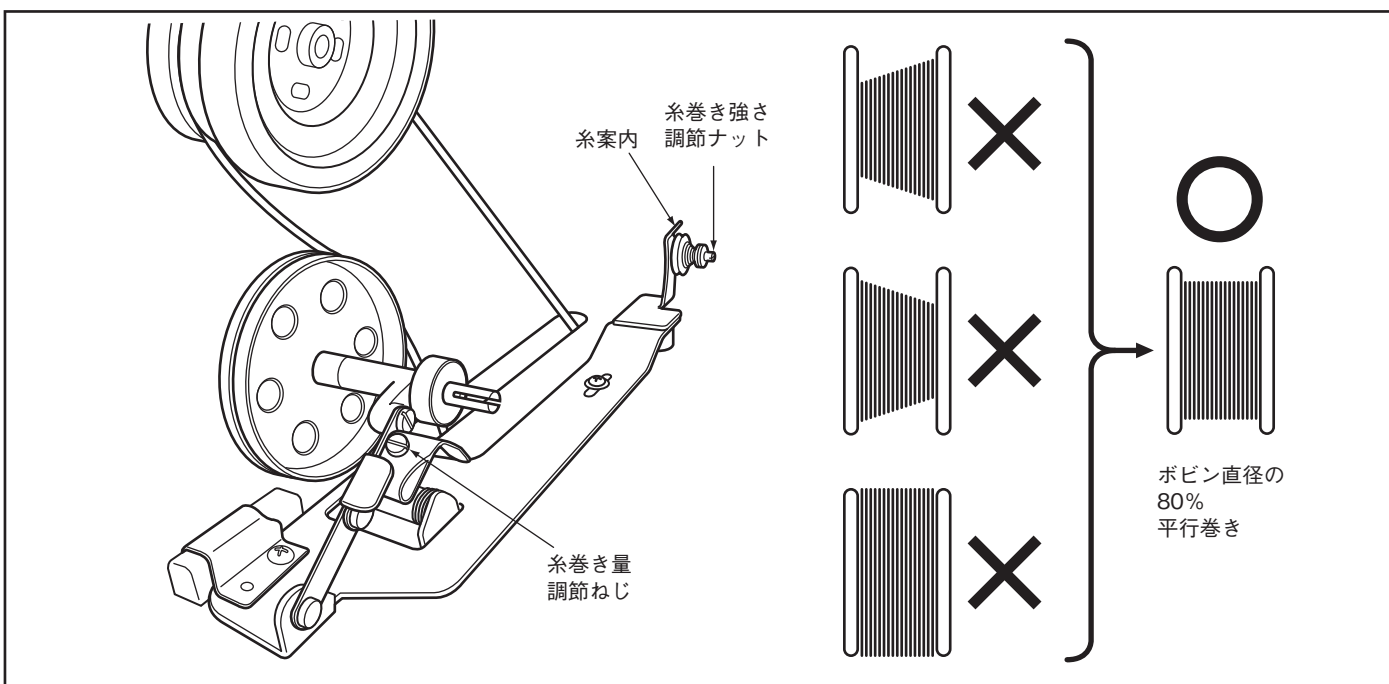
針は DP × 17 と DB × 1 が使用できるようになっています。そのときのタイミングマークは図の通り使用します。



2 下糸の巻き方

注：空運転するときは必ず押えを上げておいてください。

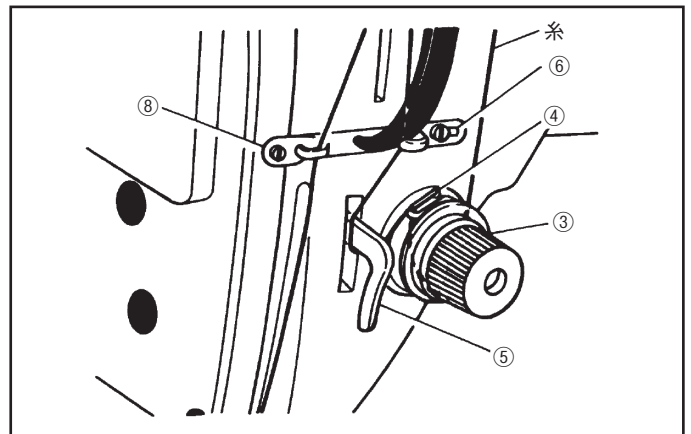
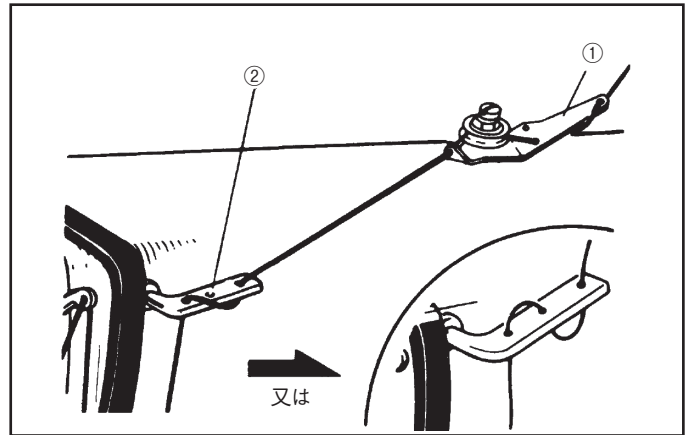
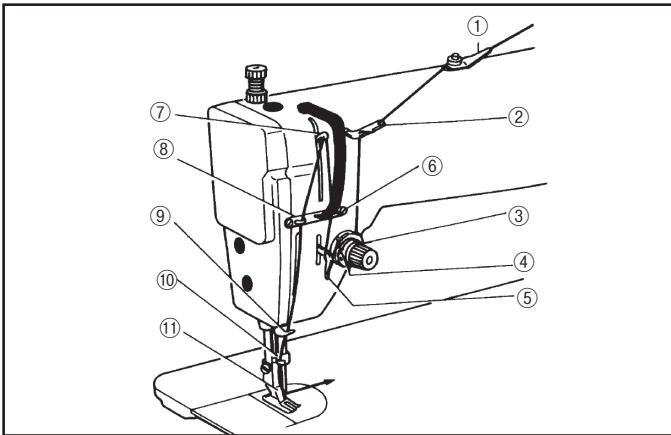
- 調節 ●糸の巻きつけ強さ テトロン・ナイロン糸を巻くときは、特にゆるく巻いてください。
- 糸の片巻き 糸案内を巻き量の少ない方へ移動させます。
- 糸巻き量 糸巻き量が多いときは調節ねじをゆるめ、少ないときは締めます。



ミシンの使い方

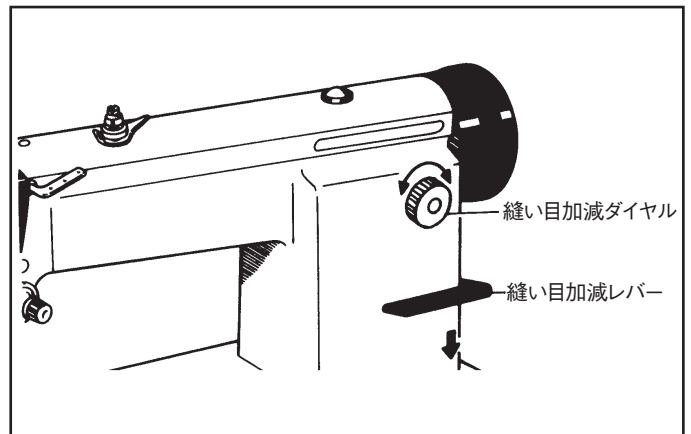
3 上糸の通し方

天びんを最高の位置にして、図の番号順に通します。

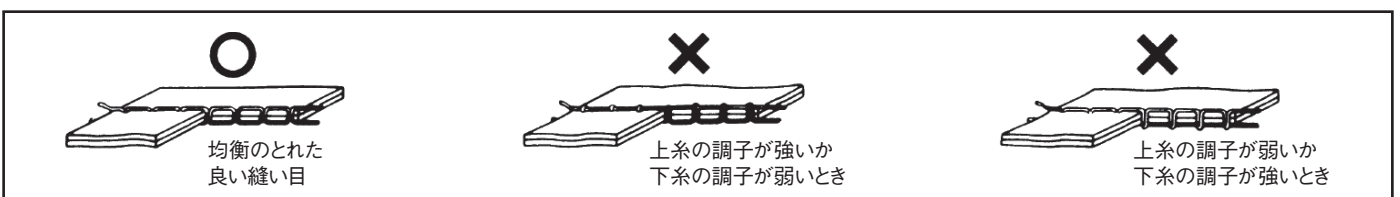


4 縫い目長さの調節と返し縫い

- 縫い目長さ調節…縫い目長さを調節するときは、縫い目加減レバーを押し下げながら、縫い目加減ダイヤルを回してください。
- 返し縫い……縫製中に縫い目加減レバーを押し下げている間、返し縫いをします。手を放すと前進縫いに戻ります。



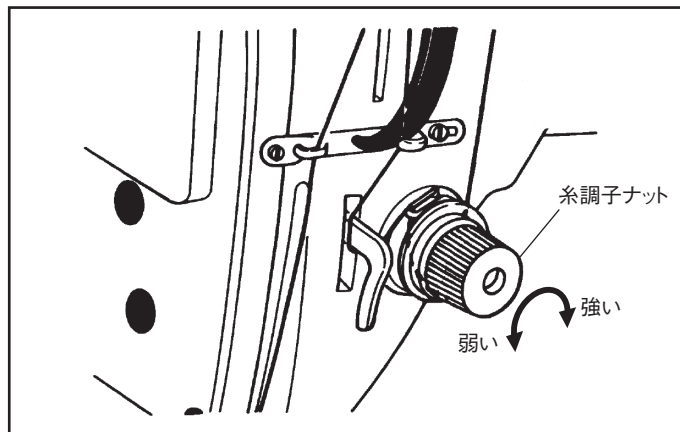
5 縫い調子



ミシンの使い方

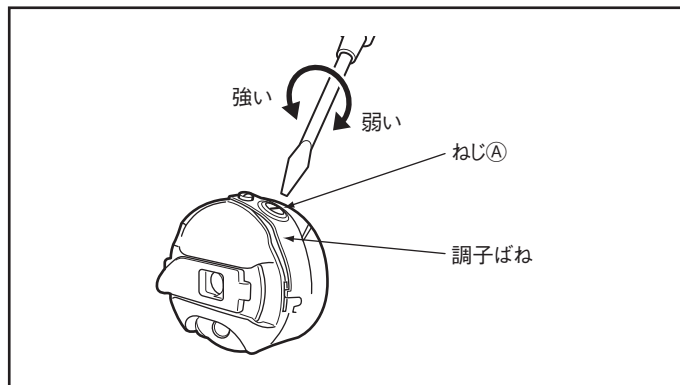
6 上糸の調子

- 上糸の強さは、下糸の強さを基準にして調節します。
- 糸調子ナットを回し調節します。
そのほか、特殊な布や糸の縫製には、糸取りばねの強さ・糸取りばねの作動量によっても、上糸の強さを調節します。



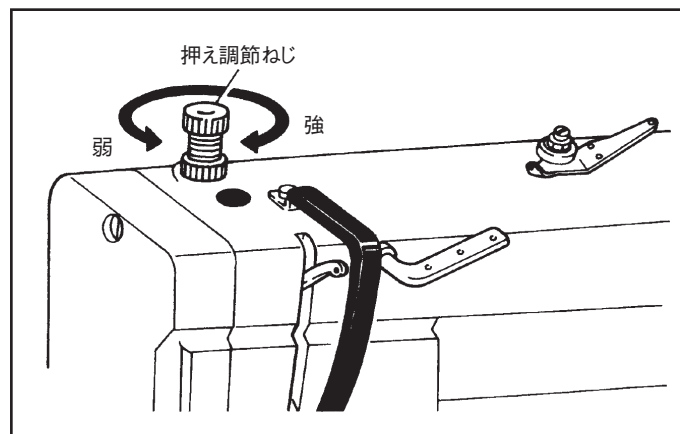
7 下糸の調子

- ねじ①を回して調節します。



8 押え圧の調節

- 縫い物に応じて押えの圧力を調節します。
- 圧力は必要最小限の強さでご使用ください。

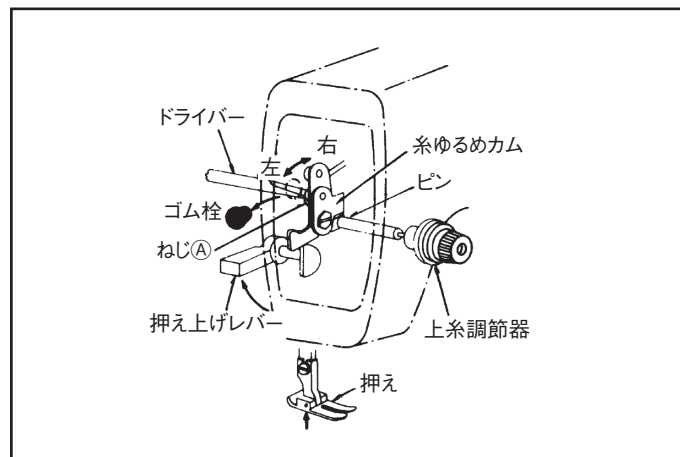


9 上糸調節器の調子皿の開き時期の調節

押え上昇量(2～7mmの範囲)に対して調子皿の開き時期が調整できますので、次の要領で行ってください。

- (1) ゴム栓を外して、ねじ①をゆるめます。
- (2) 糸ゆるめカムを右、または左に移動させます。
- (3) 皿の開き状態を確認してからねじ①を締めます。

- ゆるめたい押え上昇量と同じ厚みの板を押えの下にはめて作業を行うと便利です。



仕 様

LS2-1130 の仕様

仕 様		機種名	
		LS2-1130-M0B	LS2-1130-B0B
用	途	中厚物用	厚物用
最 高 縫 い 速 度 (rpm)		4500	3500
縫 い 目 長 さ (mm)		0 ~ 5	0 ~ 7
針 棒 ス ト ロ ーク (mm)		30.5	35.0
天 び ん ス ト ロ ーク (mm)		61.3	72.0
送 り 歯 高 さ (mm)		0.8	1.2
押 え 上 昇 量 (mm)	手	6	
	ひざ	13	
使 用 針		DB × 1 #14	DB × 1 #22
か ま (垂 直 全 回 転)		標 準 が ま	倍 が ま
給 油 方 式		自 動 給 油 (一 部 注 油 式)	
ベ ッ ド 寸 法 (mm)		475 × 178	

注) ● ボビンは、変形していない良質のものをご使用してください。

● 縫製素材・縫い条件などにより、上記仕様で使用できない事がありますので御了承ください。

● 改良のため一部、仕様変更することもあります。

三菱電機株式会社

この印刷物は、2014年12月発行です。なお、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

2014年12月作成

printed in Japan